

原子力人材育成ネットワーク・海外原子力人材育成分科会：報告

主査：東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 上坂 充

幹事：(財)原子力国際協力センター 鳥羽 晃夫、伊藤 豊

【設置目的】

原子力新規導入国等の国際社会からの多様な人材育成の要望に対応する産学官連携体制の整備に寄与することを目的とする。

【提案事業・活動計画等】

- 1) 国、大学・研究機関、原子力関連団体等による海外原子力人材育成活動やこれに関連する情報の共有と連携を強化
- 2) 海外人材育成に関する情報の収集と体系的整理により、特に海外から見た日本の海外人材育成の取り組みを可視化
- 3) 原子力新規導入国への人材育成方策の提案のための我が 国人材育成体系の整理
- 4) 原子力新規導入国技術者育成のための、受入れ、教授人材派遣体制の整備

海外原子力人材育成分科会の発足に当たり、資源エネルギー庁も海外原子力人材育成に関する取組を継続し、本分科会の活動に協力するとともに、国際原子力協力協議会(存続)と相互に機能的に活用することとなった。

【海外人材育成活動データベース作成に至った経緯】

○従来から、海外人材育成に関し、国内関係各機関が多くの案件を個別に実施していた。

○国内関係各機関の間でも、十分な情報共有が実施されていなかった。

○このため情報の総合的な把握、及び全体の体系的な整理の必要性となった。

○相手国から見て、また、ロシア、仏、韓などと比較しても見える化が不足

このため、本分科会では、国内関係各機関が実施している活動をデータベース化し、日本の海外人材育成活動を整理したマトリックス(対象：研修内容、実施機関等で整理)と時系列を示したマイルストーン(ロードマップ)を作成し、内外に向け日本の活動の「見える化」を図ることとした。作成後、効率的な人材育成活動の推進に活用し、かつ、相手国に対する協力の提案のツールとなることが期待される。

【分科会活動】第1回分科会：7/3、第1回WG：8/1、第2回WG：8/7、第2回分科会：11/1、第3回WG：1/23、第3回分科会：2/21

- 1) 海外原子力人材育成を実施している国内各関係機関より、平成23年度実績、及び平成24年度計画のデータを収集し、データベース化。
- 2) データベースを用い、ベトナムを事例としてマトリックス化。
- 3) 海外原子力人材育成分科会事務局(JICC)のホームページから関係者がアクセス・閲覧可能なマトリックスの公開。

【今後の課題】

○マトリックスの作成に当たり、研修の項目、実施・未実施等を明確化するとともに、新規導入国の要求項目・レベル等を明確にし、それに対する到達度を示す。○ロードマップの時系列化及び英語版作成。○マトリックス、ロードマップの活用方策。○当面はベトナムについて整備、順次他国に拡大。○産業界が実施可能な部分について検討

【第3回 WG での議論の内容】

ここまでの議論、調査結果、データベースを活用して、Case Study として ベトナム向け実務的人材育成計画提案(EPC 契約と連携する実務系の育成など)検討している。